

# 足音

一〇月七日  
石巻中一年  
学年通信No.二十九  
編集・発行  
鈴木 孝明

## 受験へ向けて

テストの時、先生たちは、テスト監督として教室に入ります。そこでは、正しくテストが行われるようにするのはもちろん、先々の受験へ向けた指導をするという意味合いもあります。

そこで、今回、私が監督に入ったクラスに見られたことで、今後直していくとよいと思ったことを挙げておきます。多くはテストのみならず、普段の学習から気をつけておくといいものだと思います。

### ①鉛筆（シャーペン）の持ち方

小学校一年生の時には正しい持ち方を習ったはずですが、それがいつの間にか少しずつ変化し、自己流の持ち方が定着してしまいます。教室に三十人いれば三十通り、とはいかないまでも、実にさまざまな持ち方が存在しています。親指が人差し指を覆うように強く握りこんでいる人がいたり、反対に人差し指が親指を握っていたり、外側に人差し指から薬指まであてている人がいたり、と、見ているとちょっと笑えてくるくらい個性的な握り方にあふれています。

正しい持ち方はこれ（下の画像）です。

「書ければなんでもいい」と思いがちですが、そんなことはなく、正しい持ち方にはちゃんとメリットがあります。



この正しい持ち方は、人差し指主導で鉛筆を動かすことができます。それにより鉛筆の可動域が広くなります。単純に動かしやすくなります。また、人差し指は別名「頭指」と言われており、五本の指の中で脳の神経と最もつながりが強いと言われています。したがって、人差し指主導で鉛筆を動かすことで、脳が活性化していくそうです。それを聞いた純粋で素直な心をもっていただければ、すぐに持ち方を矯正し、教員採用試験にのぞんだことを覚えていきます。みんなは当時の私よりもっと若く、先が長い。したがって、すぐに鉛筆の持ち方を直せば、きつといいことがいっぱいあるでしょう。今日からすぐに直してみましよう。

### ②椅子に座る姿勢

机に目が近い人が実に多いです。鉛筆が目とささるんじゃないかと思うくらいの人もいます。問題にくらいつくようにして解く、そんな必死さは伝わりますが、今のみんなは成長期で

す。背骨や腰に変な負担がかかったまま長時間過ごすのは身体に良くありません。

椅子に深く腰掛け、背筋を伸ばして机との距離を適度にとる。そうすると見た目にも美しく優雅に余裕をもって解いているように見えます。印象もアップです。実際に成績につながるかはともかくとして、直してみましよう。

### ③点を取りにくい姿勢

こんな言い方をすると、サッカーのストライカーについて言っているようですが、あくまでもテストの話です。それは、見直しの仕方。多くのテストは一通り解いた時点で時間が余っていたと思います。当然見直しをするわけですが、そのやり方に甘さが見られます。書いた答えをサーッと見直すだけでは間違いに気づけません。

見直しは答えをもう一度見るのではなく、もう一度解き直すことです。全部とはいかないまでも、配点の高いところや自信のないところを重点的に、一つでも多くの問題を解き直してみるとよいでしょう。

以上三点にしばって挙げましたが、伝えたいことはまだまだあります。それはまた別の機会に。テストの点とともに、受験生としての姿勢を伸ばしていきたいましよう。